

地域・家庭と連携した 学力向上の取組

岡山市立高島小学校

1 はじめに

本校では、一人一人の児童の確かな学力の向上を図るため、特に次の二つの視点を大切にしながら、様々な実践に取り組んでいます。

- 学力向上の基盤づくりを全学年・全クラスで徹底していく。
- 様々な取組を通じて、学校・家庭・地域の連携を一層推進していく。

学習規律など学習の基盤づくりを全学年で徹底し、積み重ねていくことが、一時間一時間の確かな学びへとつながっていきます。

また、家庭・地域との協働体制を強化していくことで、授業以外の継続的な学習機会の確保や家庭学習の習慣化を図っていくなど、家庭・地域とのより望ましい連携の在り方を探っていくことが重要であると考えています。

2 学力向上の基盤づくり

○「高島スタイル(学習版)」の徹底
本校では、「学習用具準備の仕方」「発表の仕方・聞き方」などの学習規律に関するものを「高島スタイルI」、ペアやグループ学習の進め方など学び合いの授業の進め方に関するものを「高島スタイルII」と呼び、授業の中で大切にしています。

具体的な内容について年度始めの全体研修会で共通理解を図るとともに



ペア・グループ学習を核に子どもたちの考えが
つながっていく学び合いの授業

に、公開授業を伴う全体研修では、毎回「高島スタイルの定着」を協議の柱の一つとして、全体で振り返りを行うなど、その徹底に努めています。

○高島版連絡ノートの活用
生活習慣や毎日の家庭学習の時間のチェック欄を設けた本校独自の連絡ノートを作成し、基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭と連携して取り組んでいます。

徹底

児童が落ち着いた気持ちで学校生活を送ることのできるようにするためには、集団生活のきまりやマナーをしつかりと身に付けていくことが大切です。「学校のきまり」や日々の生徒指導で曖昧になっている部分を整理し、「高島スタイル(生徒指導版)」としてまとめ、全教職員で共通理解を図っています。全体で取り組むべき課題については、毎週の生徒指導連絡会で周知し、その徹底に努めています。また、信頼関係づくりの一つとして、担任と児童が共に遊ぶ時間を確保しています。

○メディア接触コントロールの取組
毎学期「メディア接触コントロールウィーク」を設け、アウトメディアの推進を家庭・地域へ呼びかけています。親子で生活習慣を振り返る活動を通して、メディア接触コントロールへの意識を高め、生活習慣の改善へつなげています。

3 家庭・地域との連携

○放課後算数教室の実施

3・4年生の希望者を対象に週1回ずつ実施しています。内容は、算数の基本的な計算問題を中心に反復練習を行い、基礎学力の定着化を図っています。多くの保護者や地域の方々の協力をいただき、継続して行っている取組の一つです。

4 おわりに

多くの保護者や地域の方々の支援により、それぞれの取組において成果を実感しています。

今後も引き続き、取組を継続し、改善を図りながら、保護者や地域の方々と共に一歩一歩前進していきたいと思います。(校長 西岡清)

月	日	曜日	内容
1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12
13	14	15	16
17	18	19	20
21	22	23	24
25	26	27	28
29	30	31	

落ち着いた学校環境の整備の取組

瀬戸内市立国府小学校

1 はじめに

本校の児童一人一人は素直な子が多い反面、集団の中で力を発揮できにくい傾向が見られ、そのことが不登校などの生徒指導上の課題につながっているのではないかと考えました。全国学力・学習状況調査の児童質問紙結果においても、「自分にはよいところがある」という設問に対して、「自信がもてない」という割合が、他の設問結果よりも高い傾向にあります。

2 取組

そこで、子どもの自己肯定感を高め、ていくための取組として、学校と地域とが連携し「学校支援地域本部事業（カラフル）」に平成23年度から取り組んでいきました。また、子どもたちの本音の悩みを聞き、心を解きほぐすために「教育相談」も見直していきました。

（1）学校支援地域本部事業の取組
色々（カラフル）な特技を持った



見守り活動「朝のあいさつ運動」

色々（カラフル）な個性の大人が学校の応援団として、「見守り活動」「学習支援」「環境整備」を中心としたボランティアとして学校に関わってくださいました。中でも、毎週火曜日の「あいさつ運動」では、十数名の大人が子どもたち一人一人に声をかけ続けてくださいました。声の出にくかった子どもも顔見知りになるにつれ、声が出るようになり、笑顔も出るようになりました。このこと

が、学校の空気を変える大きな転機となったように思います。ミシンの学習支援や総合的な学習の支援に入ってくださる地域の方たちに対して、自然な会話をやさしい笑顔でできるように努めてきました。また、子どもだけの「カラフル子ども隊」を組織して、校内のボランティアに取り組んだり、地域の方といっしょにボランティアを行ったりすることが小さな自己有用感の芽を培っているように思います。



学習支援「家庭科ミシン実習」

（2）教育相談の見直し

従前から実施している学期1回の教育相談アンケートに合わせた「児童相談週間」と毎週木曜日の昼休みに「ここにこルーム相談」

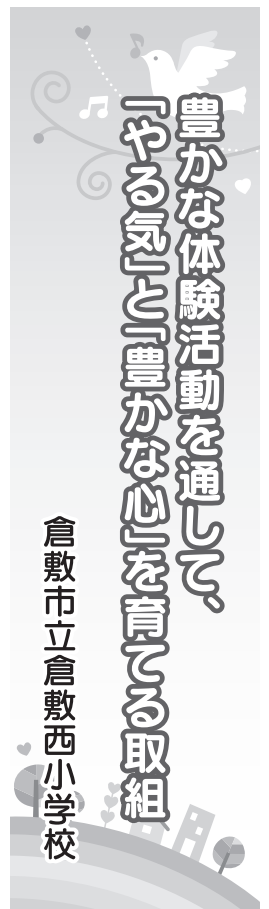
を、より効果的なものになるようにアンケート項目について見直したり、気になる相談事項についてはケース会議につないだりしていきました。また、相談窓口を広げ、担任以外の相談しやすい教職員へも相談しやすくしました。そして、子どもへは、どの先生が何曜日を担当するのかを広く知らせたり、相談ポストに相談したいことを投函できるように工夫したりしていきました。このような小さな見直しですが、子どもは、先生と話したことで安心感を覚え、相談したことが解決の方向に向かうことで信頼感を強めていったように思います。

3 成果と今後に向けて

成果として一番感じることは、具体的ではありませんが、学校が爽やかな空気に包まれてきたように感じることです。

学校支援地域本部事業という一つの取組が学校環境を整え、現状を見直したことが学校の落ち着いたつながったことは、我々教職員の大きな自信となりました。学校にはまだまだ課題は数多くありますが、全職員で課題を共有し、同じ方向を向いて取り組んでいきたいと思えます。

（前年度校長 大谷 正）



倉敷市立倉敷西小学校

豊かな体験活動を通して「やる気」と「豊かな心」を育てる取組

1 はじめに

価値観の多様化や社会の急激な変化に伴い、子どもたちは自己肯定感や自己存在感を感じにくく、本校でも、不登校や問題行動という形によって表出する場合も少なくないという現状があります。

しかし、このような状況であるからこそ、まず学校生活において、子どもたち同士の望ましい人間関係や教師との信頼関係の中で、自己実現の喜びを味わうことができる場を多く設定していくことが必要であると考えます。

2 基本的な考え方

本校の教育の基本方針は、「一人一人を見守り、やる気と豊かな心を育てる教育の実践」です。「やる気」と「豊かな心」を育てるために、今まで取り組んできた様々な教育活動の位置付け等を、次のような七つの観点をもって再確認し、さらに充実発展させていくように努めました。

- 繰り返し、継続した体験を。
- 実体験を重視して。
- 子どもの感性を刺激して。
- 取り込む方向で精選・精査を。
- 地域の実態と学校ニーズを。

- 組織としての取組を。
- 緻密な計画と大胆な実施を。

3 具体的な取組例

- ・清掃奉仕活動【高学年】
毎朝始業前に、6年生が交代で、学校前の「あいさつ道路」の清掃奉仕活動を行います。5年生は、校内の清掃奉仕をします。本校の伝統的な取組の一つです。



「あいさつ道路」の清掃奉仕活動

・あいさつ運動【全校】

- 毎週火曜日に、3、6年生が交代で校門に立ち、全校に挨拶を呼びかけの活動をします。



あいさつ運動

・ふれあい体験学習【全校】

- 地域の方を講師として16の講座を開設し、子どもたちは自分の希望する講座を受講して活動します。



ふれあい体験学習(「お茶と生け花」)

- ・学校まるごと美術館【全校】
学区内にある「大原美術館」を半日貸し切り、各学年の発達段階に応じた芸術に触れる体験活動を行います。

・アルミ缶集め、エコキャップ運動【全校】

- 環境委員会や4年生が中心となつて全校に呼び掛けます。地域の企業等とも連携し、老人福祉施設へ車椅子を贈呈したり、支援活動団体へキャップを送ったりします。



車椅子贈呈式の様子

- その他、各学年毎には、次のような取組を行っています。
- ・ネットモラル教室【6年】
- ・エイズ学習【6年】
- ・国際交流出前授業【5年】
- ・美観地区検定【4年】
- ・そろばん教室【3年】

4 成果と子どもの変容

それぞれの発達段階に応じた様々な体験活動を取り入れ、地道な取組を積み重ねていくとともに、教職員が一丸となつて教育活動の充実を図っていくことで、子どもたちは「やる気」をもって様々な活動に主体的に取り組むことができています。また、体験活動を通して得られた満足感・達成感が、落ち着いた学校生活や学力向上にもつながっているのではないかと感じています。

5 おわりに

6年生の子どもが次のような感想を綴っています。

これまでの先輩方が受け継ぎ、高めてきてくださった「伝統」と「思い」を、これからもつないでいけるようにあいさつ道路の奉仕活動に取り組んでいます。倉敷西小の顔として地域の方々と挨拶すること、私たちのよいところを地域全体へ広げていけるようにと思いつながり組んでいます。

このような思いをもつ子どもが一人でも増えていくように、また、全ての子どもに自己肯定感や自己存在感を培っていくことができるように、今後も教育活動の充実に努めていく必要があると考えています。

(校長 三崎伸一郎)

学力・学習状況改善プランに基づいた 学力向上の取組

高梁市立高梁小学校

1 はじめに

本校は、高梁市の中心に位置し、各学年二クラスの中規模校です。全体に落ち着きがあり、生徒指導面での大きな問題も無く、不登校児もほとんどいない現状です。ただ、学力面では課題があり、全国学力調査の結果を基に、「学力・学習状況改善プラン」を作成し学力向上に取り組み始めてきました。

2 取組の実施体制

平成23年度から3年間で、基礎・基本の定着を目指した授業改善を行いました。また、平成25・26年度には「魅力のある授業づくり徹底事業」の指定を受け、的確な指導をいただいで、実践を進めました。校内では、低・中・高学年部と、教科部会（算数・社会・理科）に分かれ、授業研究を行いました。

3 学力向上に向けた具体的な取組

(1) 「高小スタンダード」の作成
学習規律、学習用具、身につけさせたい力、授業の進め方などをまとめた冊子を作成し、全教職員の共通理解の上で指導に当たるようにしています。毎年見直しを行い、よりよいものに行っています。現在は、「バージョンV」を作成し活用しています。

(2) 授業改善月間を通して
10月に一週間ごとにテーマを設け、それにあつた授業づくりを試み、その成果や課題を出し合うことにより授業力の向上に取り組みました。

(3) 授業研究

本校では、全員年1回以上の授業公開を行っています。特に提案授業については全教員での事前検討、授業参観そして研究協議（ワークショップ型）を行っています。外部講師を招聘して指導・助言をいただいでいます。また、他校にも参加を願ひし、校種を超えた立場での意見をいただき授業改善に役立てています。

(4) 放課後補習と家庭学習の充実

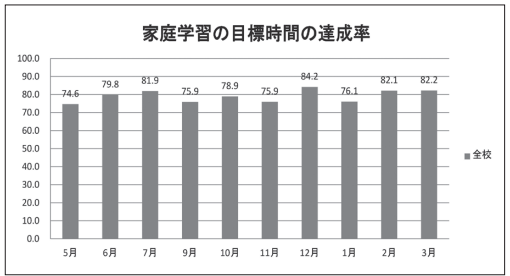
1・3学期の毎週火、木曜日の放課後に希望者を対象に補習を行っています。主に算数を中心に、個別に指導を行っています。また、家庭学習については、年度初めに「家庭学習の手引き」を配布し、家庭学習の意義や方法等を発達段階に合わせ分かりやすく家庭に伝え、協力をお願いしています。また、10分×学年を最低の家庭学習時間とし、担任で毎日の結果を確認し、月ごとに集計し、その結果を保護者に戻しています。

(5) 外部の方々の支援

本校では、以前より地域の方々に



地域の方の支援をいただいで
(5年家庭科)



よる支援がありました。が、昨年度より、退職された先生方や大学生による授業や補習などの支援を多くいただいでいます。困り感のある児童に支援をいただくことにより、分かる児童が増え、支援をしていただいた方々にもやり甲斐を持ってもらえ、大変効果のある取組でした。

4 成果

○「高小スタンダード」の研修により、本校1年目の先生にも共通理解の上、授業を開始できました。

○指定授業、公開授業により、学び合いのときの「個人↓小グループ↓全体」のユニットを授業のどこに設定するか、どんな目的でどんな方法で行うかを考えることができました。

○家庭学習の時間の確保が4月より12月では約10%伸びました。

5 おわりに

平成26年度の全国学力調査の結果は大変良好でした。ただそのことだけを喜ぶのではなく、今後も「学力・学習状況改善プラン」を基に、児童の実態を踏まえ、分かる授業、そして児童の学びに対する意欲をかき立てる授業を目指し、全教職員がチームとして情熱を持って指導していきたいと思っています。

(校長 三村 秀樹)

校訓「明るく・楽しく・美しく」の具現化に向けた取組

真庭市立落合中学校

1 はじめに

平成25年12月末から新校舎建築工事が始まり、平成27年3月に新校舎が完成、昨年度末に移転しました。校舎建築工事のあわただしい中「明るく・楽しく・美しく」の校訓のもと「落ち着いた状態のまま新校舎へ」を目標に生徒一人一人に目を向けた指導の充実と学力の向上等に取り組みました。



2 取組の実際

(1) 落ち着いた学校をつくる

生徒一人一人が安心して過ごすことのできる学校を目指して、「規範意識の徹底」「生徒指導の充実」「いじめを生まない集団づくりの推進」を中心的な取組として、落ち着いた学校づくりに全職員で取り組みました。そのほかポイントとなる主な活動は次に挙げるものです。

- ・ あいさつ運動の継続
 - ・ 清掃活動の推進
 - ・ 諸行事への取組の充実
 - ・ 生徒会活動の充実
 - ・ 振り返りシートの活用
- 日常のありふれた活動ですが、継続・充実させていくことで生徒は学校で安心して生活し、学校全体が落ち着いています。ポイントの中の「振り返りシート」は自分自身と周囲の仲間の生活を振り返るアンケートで、いじめ・不登校などの早期発見・初期対応に役立っています。

(2) 学力をつける

○授業力の向上
言語活動の充実を研究主題に、主体的な学びにつながる授業改善に取

り組みました。授業公開の回数を増やし、授業展開・授業形態の工夫、ICTの活用などの改善を進めています。

○学習意欲の喚起

学習意欲に課題のある実態から、「やったらできた。」の経験を積むことで学習意欲を喚起することができると考え、放課後に「校内統一漢字テスト」（年5回、小学校で既習の内容、100問プリントから50問を出題）を実施しました。全校の前向きな取組により、他の学習についても改善が見られるなど成果を上げています。

○学力補充の推進

授業のない6校時に行う補充学習日、定期テスト前の質問教室、地域

の方の力を借りて行う放課後学習会など放課後を利用した学力補充の取組を充実させました。校風の醸成や学習意欲の高揚に役立っています。

(3) 家庭・地域とともに(小中連携)

(小中連携推進協議会)の推進

小中連携では授業の約束、家庭での生活習慣の改善、地域への情報発信など統一した取組を協議し、各校で実践し、情報交換による交流をしています。家庭での生活習慣改善としては、±30運動(テレビ、スマホ、ゲームを30分マイナス、学習、読書などを30分プラス)のピラを作成し学区内の全家庭に配布しました。子育て中のほとんどの家庭が抱えているテレビ、ゲームなどに係る生活習慣の問題について地域全体で考えるよう提唱することができました。

3 おわりに

校訓「明るく・楽しく・美しく」は、落ち着いた環境の中で生徒がいきいきと活動する姿を表しています。校訓の具現化に向けた取組は、緒に就いたばかりですが、生徒一人一人に目を向けながら日常の実践を積み重ね、新しい校舎に現在の校風を根付かせていきたいと思えます。

(校長 高田 雅夫)

